

ニコレックス

NIKKOREX

by T. Harada

原田 忠 茂



ニコレックス (ポロミラーシステム一眼レフレックス35ミリカメラ)

ポロミラーシステムという妙な名称のカメラニズムで日本光学がニコレックスを発表した。いままで、高級機のみを発表し続けた日本光学が、このような中級機を発表せねばならぬ動機はどこにあるのか、うかがい知れぬが、使用者にとっては、安く、良いものならば、こんな結構なことはない。しかし、最高機ニコンのイメージを持つ大多数のカメラ愛好者にとって、ニコレックスの与える心理的影響はどのようなものか、大きな問題だと思ふ。

新型競走が、どうやら、下火になった折とし、ポロミラーシステムの出現が一眼レフのあらたなブームをまきおこすか、興味深々といつたところだが、果して、そのような反響をニコレックスが巻き起こすか、その性能の如何にかかっているといつても通言ではあるまい。以下は、そのニコレックスの使用感ともいふべきものを筆にまかせて書いてみたものである。

ニコレックスの主性能

サイズは138×95×74ミリというから、決して小さいほうでない。寧ろ大きな感じである。特に縦位置での撮影は大きいな、という感じがする。露出計を内蔵した結果突出部が上面の大半を占めるようになった結果であろう。

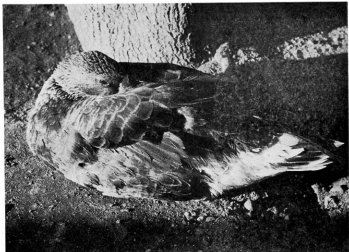
デザインとメカニズムの調和は大きな問題だが、使用者にとって、使いやすいたことが一番の先決問題と思うが、デザインが強調されるあまり、使いにくくなつては、角をためて牛を殺すのとえもあるように、あまり感心したものでない。この点、ニコレックスはほどほどといった感じで、中庸を得たという形容が当てはまるかも知れない。

シャッターはシチズンのMV LでB₁1500まで、鏡胴の一番先にフィルム感度目盛がASA 10₁まで切っており、その次に倍増のシャッタースピードリングが、その後絞リリングがある。こゝら辺の精度はいわゆるチャチな感じはない。いずれも中級の出来である。このスピードリングと、絞リリングの間にセルフタイマーのノブが出ているが、これは安めのめいど感じがある。タイムは約十秒ぐらいだと思ふ。焦点合せは直進式(ヘリコイドで無限大から2フィート(60センチ)まで測定できる。この鏡胴付近のスタイルはレンジシャッタータイプのカメラにつきもののヤボったさである。フォーカルブレンディングのカメラのスマートさは求め得べくもない。しかも使つてみてゴチャゴチャした感じがいつもつきまわっている。メカニズム自体、深色は

ないとしても、下手の印象を与えるのは損である。ニコレックスに限らず、レンジシャッタータイプのカメラを考へて、しかるべき問題だと思ふ。

シャッターボタンの位置は可もなく不可もなく、慣れで解決させるべき位置にある。問題にはカメラ上面の突出部が大きすぎる。ことよつておけるカメラ保持の不便さ、ボディの高さの割に、横がつまりすぎていくことで、このため、縦位置撮影の際のカメラ保持が特に不安定になり、小さな手のものには、親指をボタンにかけると、充分に、カメラの底に他の指がまわらないこととなる。この欠点をおききなう意味からいって、横をもうすこし長くしたほうがよかつたのではないかと思ふが、どんなものだろうか。このために、シャッターボタンの位置が、現在置以外に余地がないことになつたのではなからうか。

完全自動絞りは使用した結果は上々であつた。ミラーのはね上りと、絞リ羽根の動きが完全に一瞬に作動して正確であつたが、クイックリターンではないので、シャッターを切ると、ミラーが上りつ放しになり、ファインダーが真黒になる。巻上げると、ミラーが下り、ファインダーは元の明るさを取り戻すというわけだが、クイックリターンに慣れていると、一瞬ファインダーが真黒になるのは巻上げれば、元の状態に戻るとは知りながら気持ちの良いものではない。また、撮影スピードにも関係はあるし、相手の動きの流れを見ながら撮らねばならぬ状態にあるときは、動きが断続的に切れてしまうので、大変、困ることになる。もつとも、一枚きりですむ記念写真真的なもの撮影では、これで充分であらうと思ふ。



作例④ ニコレックス・マイクロQ 30mm F2.5・ネopan SS・1/125s・絞3.6・ミクロファイン・レーガルフ・コントロール

苦情のついでにいえば、巻上げレバーが重すぎる。特に、このようなミラーが上り放しになるメカニズムでは、レバーの動きを早くして、ミラーを撮影準備完了といった状態におかねばならぬのにレバーの作動が、重くて、スムーズにいかないのは困る。完全自動絞りのメカニズムではレバーに力がかかりすぎるので、なかなか思うよ

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

うにゆかないと、思うがもっと、軽くする必要があらう。またシャッターを切り終ると、カチッと音がするが、これも有害無益の雑音ともいえる。音で、すみやかに改良すべきであらう。ここで、一つ苦言をいえば、あらゆるオートマチックの一眼レフに共有する問題として、耐久性の問題がある。一瞬のうちに、ミラーと絞りレフとシャッターを動作させるのだから、どれか一つ故障したら、それこそ、とり返しのつかないことになる。願

ボロミラーシステム

ボロミラーシステムのファインダーは文句なく良い。ファインダー窓が、中央部から大分左へ寄っているのが、レンジファインダーかと錯覚をおこすほどであるが、中央部にファインダーがあるより、左に寄っているほうが、見やすいことは確かだし、カメラ保持の安定性もまずことになる。明るさは充分すぎるほど、明るくて、出色の出来である。周囲に黒の太い枠がとってあるためもあるだろうし、その黒枠の上部に露出計の指針が見える。

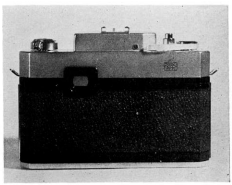
露出計はシャッタースピードと、絞りに完全に連動し、指針はボディ上部の窓でもみえるし、前述のファインダー内の黒枠内の窓でもみえる。特にこの窓は、ハート型を上下に切断し、その上部を白くはめこんだように見え、その中央のくぼみに指針が行けば、露出が適正となるメカニズムで、このような露出計の内蔵機構は、この種のカメラでは出色のものと思う。

露出計はシャッタースピードと、絞りに完全に連動し、指針はボディ上部の窓でもみえるし、前述のファインダー内の黒枠内の窓でもみえる。特にこの窓は、ハート型を上下に切断し、その上部を白くはめこんだように見え、その中央のくぼみに指針が行けば、露出が適正となるメカニズムで、このような露出計の内蔵機構は、この種のカメラでは出色のものと思う。

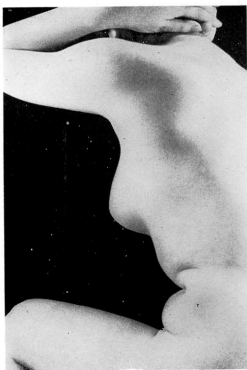
ボロミラーシステムのファインダーは文句なく良い。ファインダー窓が、中央部から大分左へ寄っているのが、レンジファインダーかと錯覚をおこすほどであるが、中央部にファインダーがあるより、左に寄っているほうが、見やすいことは確かだし、カメラ保持の安定性もまずことになる。明るさは充分すぎるほど、明るくて、出色の出来である。周囲に黒の太い枠がとってあるためもあるだろうし、その黒枠の上部に露出計の指針が見える。

ボロミラーシステムのファインダーは文句なく良い。ファインダー窓が、中央部から大分左へ寄っているのが、レンジファインダーかと錯覚をおこすほどであるが、中央部にファインダーがあるより、左に寄っているほうが、見やすいことは確かだし、カメラ保持の安定性もまずことになる。明るさは充分すぎるほど、明るくて、出色の出来である。周囲に黒の太い枠がとってあるためもあるだろうし、その黒枠の上部に露出計の指針が見える。

ボロミラーシステムのファインダーは文句なく良い。ファインダー窓が、中央部から大分左へ寄っているのが、レンジファインダーかと錯覚をおこすほどであるが、中央部にファインダーがあるより、左に寄っているほうが、見やすいことは確かだし、カメラ保持の安定性もまずことになる。明るさは充分すぎるほど、明るくて、出色の出来である。周囲に黒の太い枠がとってあるためもあるだろうし、その黒枠の上部に露出計の指針が見える。



ニコレックスの背面
ボロミラーシステム独特のファインダーは一眼レフにはちよっとみえない



自例② ニコレットス・ニコール Q50に90ミリコンバージョンレンズをつけて撮影。ネオパンSS・1/60秒・絞8・ミタコファイン・シーガーP2

手間がかかる。神経質にならず、

また、この指針は急激な動きを示すことなく、絞りなり、シャッターなりを変えることに、ゆるやかに動くので、故障の心配はすくない。

受光部は大きく、ピント合せが、直達式（ヘリコイド）なので、受光部に手が、かぶさる心配もないので、露出の決定は安全である。微妙な露出を必要とする被写体には、メーターの内蔵メカニズムは、やや不安で、測定にも不便さを感じるか、大体の見当をつける意味では、充分に役に立つ。

露出計を内蔵するか、否かは、別の問題だから、ここではふれないでおくが、風景、記念写真を撮るには、内蔵メーターは大変に便利であることは間違いない。

筆者は、シャッターを固定し、絞りリングを回転させて露出を決定した。感度も鋭く、針もとがことなく、使いやすかった。黒地に白く浮き出ているので、大変見やすく、これなら、ごく初歩の人でも、間違えなく使える。

ボディ上部の窓は、ほとんど使用しないから、強いて、つける必要はないと思つた。

作例①は、被写体に、ただカメラを向け、指針とおりの露出で、シャッターを切つたら、やや適正のネガを得た。また、このように、こまかい線がいりまぎつてゐる被写体ではスピリットイメージ式距離計では、案外に

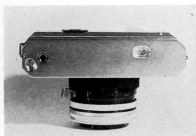
焦点深度を利用し、眼なり、羽根の一部なりに、手早くピントをきめて、撮らないと、被写体に逃げられる。この距離計では、一番測定しやすい箇所を見つけることが、撮影を手早くさせるコツだと思つた。

コンバージョンレンズは90ミリと35ミリの二種類ある。交換レンズの使えないための苦肉の策だろうが、結構、使えるのである。レンズ前面の溝にコンバージョンレンズをはめこめば、50ミリ標準が90ミリにも、35ミリにも変化するので、コツさえのみこめば、着脱が簡単だから、使用度は高くなると思う。特に一眼レフの特質上、90ミリは利用度が高い。ただコンバージョンレンズは大きい上に、重たいので、その点だけ苦勞する。問題はレンズの解像力がぶることであろうが神経質にならなければ、充分見られる写品が出来る。

ただし、注意せねばならぬのは、コンバージョンレンズ90ミリにして、35ミリにして、値がそれぞれ5.6と4だから、これ以上開放して使つたら、（標準50ミリレンズ、F2.5であり、このレンズの上に、コンバージョンレンズを重ねるわけだから、F2.5までは、必然的に開放出来るわけである）例えばF3.5に開放して使用すれば、どのような結果になるかといえ、レンズ周辺がボヤけて、解像力はまったくといってよいほど、低下してしまう。開放にすればするほど、低下率がひどくなるのである。だから、コンバージョンレンズの上手な使い方といえはなるべく絞りこんで使うのが最上の方法であろう。F8以上が結果的に最もよいであろう。F5.6開放（90ミリの例）では、やや周辺に乱れがみられるようだ。作例②はF8に絞りこんで撮つたものである。



コンバージョン90ミリをつけたニコレットス。カメラ上部の四角の窓がメーター指針をみるところ



写真の左側にあるのが裏面測距ボタンである